市民のひろば

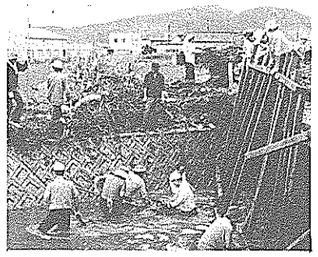
みんなの手で美しい川に

島村辰彦　（大埔）

『汗と泥、二百人奮戦』『舟入川の一斉清掃』　八月二十七日高知新聞の記事を見て、舟入川も遂にそこまで汚されたかとしみじみ感じる。

昔は舟入川も清流が流れ、香長平野の風物を潤し、豊かな実りを授けて来た。後免宇田の川の辺りには桃の花が咲き、道行く人々に春の訪れを告げ、三月の川干には大人も子供も魚取りに興じ、初夏の候ともなれば川岸一面にホタルが飛び交い、真夏の太陽が照り付ける頃にははしゃいだ子供たちの声があちらこちらで聞かれる水泳場ともなり、住民たちの憩いの場でもあった。

私も昭和十年頃までは舟入川の辺りを散歩しながら詩の思索にふけり幾つかの詩を作ったこともある。その後広島に行ってから故郷を想う時必ず頭にうかんで来るのは、太平洋の荒波とサラサラと流れる舟入川の風物詩であった。



まだその頃は筏が流され、木材輸送の大役を果していた川が今では下水道と化し、塵や芥を運ぶコンベヤーと成り下った感がある。高須の舟入川を守る会の方々にご迷惑をかけるまでもなく、私たち南国市民の手で川をきれいにしようではありませんか。何も難しいことではない、川に物を捨てなければ良いのですから……。

私たちが何気なく捨てている川を二百人の市職員が一日がかりで清掃している。人役にすれば二百人役の大仕事である。二百人役で大工さんが家を建てれば二棟の立派な家が仕上がる。一人の職員の月給にすれば八カ月分である。何気なく捨てることが自分たちの納めた税金を自分の手で無駄遣いしている。不用の物を捨てるのではなくお金を付けて投げ捨てていることでもあり、そればかりか多くの人々に不愉快な気持ちと迷惑を押し付けている結果にもなる。

環境を美しく守り自然を愛する心が大切である。自然を守り自然を愛する心を失えば必然的に川は汚される。情操を培い詩心を起させる様な美しい川にしたい。

子供の生きがいは〝遊び〟

竹島寅吉　（物部）

広報なんこく八月一日号の座談会『のびのびと育つ子供たちに！』は、今年の三月まで教職にあった身として興味深く拝見しました。

子供たちが遊びを知らない、その根本は試験地獄にあり、小学校、中学校、高校と進むに従って親も子供も次第にエスカレートすることは今日の常識であると考えます。親が子供に強い期待を持ち、少しでも良い学校に進学させ、安心できる就職をさせるまでは気持が静まらない状態は良くわかりますし、当然のことでありましょう。この ことは全国的な大問題である筈です。我々国民の一人ひとりの意志で試験地獄などという馬鹿げた現象は何としても取り除かなければならない。これなくて子供たちの幸福につながるノーマルな人間形成もできないし、第一、子供の遊びは消えてしまうだろう。

だがこれには相当の日時を必要とするので、さしあたりどうするのか。その手始めは父兄と共に考えるということ。

勉強、勉強でママゴンとなり、いたいけな可愛い子供に、自らの子供時代には遊びほうけた親が、無理強いに遊びを取り上げて塾通いをさせ、これが子供の幸福だと思いこんでいる精神状態がどうにも理解できない。子供に期待することと、無理にでも勉強させることはイコールではない。勉強は学校で十分であり、帰ったら宿題の

学校めぐり

（今日も子供たちをのせてスクールバスは走る。）

★久礼田小学校★

私たちの学校、久礼田小学校は、児童数が二百六十名、先生方が十三名。もうすぐ、開校百周年をむかえます。

校舎はだいぶ古くなっていますが、去年の冬休みと、今年の春休みの二回にわたり校舎の東半分を改造しました。改造前は、当時の二年生と四年生の四十余名が、今の半分しか広さのない教室で、きゅうくつなおもいをしながら勉強をしていましたが、今では、倍になった教室で、楽しく勉強にはげんでいます。

ようなものさえやれば上等の部類に属する。

長い一生を考えたとき、子供のときに遊びをこらえて過ごした人間は本当に幸福だろうか。人間の幸福とは生き甲斐であり、子供の生き甲斐は遊びである。この必要不可欠な遊びを失った子供の将来は精神的不具者として育つだろう。私は真の幸福とは健全な精神と肉体を土台としてもたらされるという確信を棄てることができない。

また、『お返しをやめましょう』には大賛成です。私も最近、特にこのことを痛感していたところで心より拍手を送ります。ご意見の通り、貰ったものをよう使わずに困っている家庭が大半でしょうし、お返しをする方もする方で、一方ならぬ心労で、何ぞ変ったものはないかと捜し廻り、余っても不足しても処置に困り、結局両者共骨折り損のくたびれ儲けで風袋許り高くつく。大体お返しを期待して祝儀などを贈る人はいない筈なのであっさりと廃止すべきだと考えます。私も今後、案内状などの末尾に「お返しは致しません。」と添え書きするつもりです。

「市民のひろば」への投稿、あなたのご意見は四百字以内でお願いします。……係より

親子クイズ ㊶

ご家庭で話し合って答えてください。答えは今月号の広報に出ています。

■**もんだい**

のろのろ台風○○号は県中央部に大きな被害を与えた。市でも稲生地区などに被害が出た。

■**しめきり**・10月15日（金）

■**おくり先**・〒783　南国市大埔　南国市役所内　広報委員会　親子クイズ係

■答えのハガキには必ず**お歳・職業**を書いてください。

■**しょうひん**・特賞 1,000円＝3人　残念賞（記念品）＝10人

第60回正解者発表

■**こたえ**・⑧月㉖日でした。

■**特賞**・1,000円＝3人

関田尚正くん（大埔）

浜田雅子さん（岡豊町吉田）

水田二男さん（久礼田）

■**残念賞**・記念品＝10人

森田鹿（後免中町）久米美千恵（久礼田）片岡春吉（稲生）松村宝（岡豊町八幡）村上静（岡豊町小蓮）岩原三輪（白木谷）坂田里香（大埔）中田庸介（稲生）関田清子（大埔）柳瀬紀子（久礼田）

おめでとうございました。これからもどしどしご応募ください。

答えのハガキで、広報や行政に対するご意見、マンガ、詩、短歌や俳句などもお寄せください。

南国俳壇

川村　博子（若草句会）
永田ますき（〃）
公文　政子（〃）
北岡　郁子（柿の実会）
鈴江　妃世（〃）
橋本きよ女（〃）
井上なるぎ（灯俳句会）
北村　菊女（〃）
西村　梼子（〃）

夫の労ねぎらいメロン冷えつつあり
孫ら帰り又一人なりカンナ燃ゆ
百日草老人無駄をくり返す
蜩やひねもす聞こゆ筬の音
しじみ蝶飛んで秋めく草の蔭
仕事にもようやく馴れて秋立ちぬ
夜振火のひとつはなれてうごかざる
網戸立て灯台守の石の家

南国歌壇

それぞれの立場があって黙つづく
会議の窓を秋霖過ぎる　大埔　亜矢　竜

忌わしき思い出の日の巡り来て
あじさいの青にそっとささやく　立田　北村千鶴

自らを狭く生ききてたそがれの
野に曼珠沙華炎ゆる一画　大埔　山本糸喜

宿直室に雨の音のみひそかなり
深夜の患者眠りは深かし　大埔　山崎満智子

宵宮の土産とくれし妨な子の優
優し菅惜しく風鈴しまう　稲生　竹内冨二枝

夫も子もなき老のわびしさは
高齢教室に学ぶ楽しさ　後免町　田所芳恵

友達の中には、遠い瓶岩から通学している人も少なくありません。以前は、定期バスを利用して登下校をしていました。が、バスの時刻の関係でちこくしたり、午後の授業がながびいて、次のバスを何十分も待ったり、仕方なく歩いて帰り家の人に心配をかけるということが絶えませんでした。しかし、市の方々や、PTAの大変な努力のおかげでスクールバスが通うようになってからは、とてもよくなり、安心して学校での精一ぱいの学習ができるようになりました。

私たちの学校は、年に三回か四回ぐらい、各学級で誕生会をします。三月か四月をまとめてやっています。みんなが手づくりのプレゼントをあげて、おかしなどを食べながら、なぞなぞやクイズ、レコードをかけておどったり、ゲームをしたりして、楽しくすごします。

児童会活動も活発です。その他、おそらく南国市で一ばん水はけのいい運動場をもっていることもじまんです。三年前の台風で土が運動場へ流れこみ大変でしたが、それから二年の間土入れをし、りっぱなものになりました。運動用具、図書館、放送設備などまだまだ不足していますが、明るく気持のよい学校だと思っています。

六年　沢村佐代子